

平成 30 年度 女性と市長との懇談会（2 回目）

懇談テーマ：「女性が地元定着するための魅力的な地域づくり（魅力発信と知名度向上）について」

平成 30 年 12 月 18 日（火） 13:30～15:30

福岡総合事務所 2 階 世代交流室

出席者 女性 10 人（6 地区）

市長・政策推進部長・定住推進部長・女性活躍推進対策官

●市長挨拶

お忙しいなか参加いただきありがとうございます。1 年を振り返ると、自然災害が大変多い年でした。7 月の豪雨では加子母で連続降雨量 766 ミリという雨が降って川の危険水位に達し、市内で初めて避難指示を発令しました。9 月には台風が 2 度接近して停電が発生し、復旧に翌日の夕方までかかる場所もありました。停電は大半が倒木による電線の切断でしたが、県内でも多くの場所で同様の状況となりました。これからは中部電力と連携して、台風や雨への備えだけでなく、災害で想定されるさまざまなことに対応していかなければならないと思っています。

豪雨のあとには異常な猛暑が続きました。豊田市で小学生が亡くなられるという残念なことがあり、全教室へのエアコン設置が全国的に取りざたされて、議会と一緒に設置に向けた補助金申請をしました。国から 12 月に補助金を出す決定を頂きました。全国一斉の要求となったため、予想以上に少なくなりましたが、来年（2019 年）に向けた準備を始めました。

中津川市を全国に向けて発信できた年でもありました。4 月からの朝ドラでは、中津川市でも付知川や落合で撮影が行われて出演者からも良い場所と評価を頂きました。食では五平餅が一大ブームになり、NHKには団子にして下さいとお願いをしましたが、画面に映るインパクトからわらじ型になってしまい残念でした。郷土食を主張するため、五平餅や朴葉寿し等の地元の歴史、食に関して全国に向けて PR をしました。

苗木城跡は、全国のお城の中で 24 位にランキングされ、5 月には晋遊舎の絶景山城ランキングで竹田城を抑えて 1 位になりました。

明治座を訪れる方も増えてきました。明治座、常盤座は 120 年を超える歴史があり、歌舞伎だけでなく明治座ではクラシックコンサート、常盤座も音楽の催しや地元の芸能発表などもあって観光客も増えています。

人口減少と言われるようになってから数年が経ち、国勢調査結果によると、平成 17 年の合併時 84,000 人の人口が平成 22 年には 80,000 人、平成 27 年には 78,800 人になりました。市の財政、小中学校のあり方、施設の運営、水道の料金徴収等に影響が出ています。なにより働ける年代の減少の影響が大きく、中津川市で会社をやっても、人が集まらないから移転するという話も出てきます。若者の地元定着という人口を支える政策を中心に進めています。

6年前にリニア中津川駅という大きなアドバンテージを頂きました。リニアがくるだけでまちが良くなるわけではないので、リニアをどう活用するかが知恵の出どころです。子育て世代の皆さんにご意見を頂くことで、若い方に魅力を提供できるまちにつながると考えています。

中津川市の総合計画は、12年間で4年毎に区切って前期、中期、後期に分けています。来年度（2019年度）からは準備が整った部門に肉付けを行う時期になります。大きな目標は、人々が輝くまち、安らぐ自然につつまれたまち、活気溢れるまち、その実現にむけて進めています。

近年は転入よりも転出の方が多い状況が続いています。「希望する職種が市内に無かった」という理由が一番多く、中津川市の有効求人倍率は県内で1、2位と仕事はありますが、若い人が就きたい職種が少ないことが大きな課題です。企業誘致では、中津川市にない職種の誘致に全力をあげていきます。

来年度（2019年度）から新たな事業の具体的な部分に取り組んでいきますので、ご意見、ご協力をお願いします。

このあと、現在の女性支援策についての説明をさせていただきます。1億総活躍という言葉がありますが、そのためには、子育て支援ができる、子どもを育てる環境がしっかり整うことが大切と思っています。

平成22年から平成27年では人口は減少していますが、世帯数は増えています。これは市外からの転入だけでなく、市内でも親から離れて世帯を持ったところも多くあります。昔はおじいちゃんおばあちゃんに子どもの面倒をみてもらいながら働くということもありましたが、今ではそれができないということにもなっています。そのため企業には住宅手当より、同居手当を出して欲しいとお願いしています。企業にとっても継続して働いてもらえることにもつながります。

●女性活躍推進対策官から中津川市の女性支援施策などについて説明

定住推進部は、住んでみたい・住み続けたい地域を目指してさまざまな政策を進めています。男女共同参画も中津川市の魅力を高めるひとつの策として、女性が輝く社会の実現を目指して進めています。これは女性の権利だけを主張するのではなく、男性も女性も誰もが暮らしやすい社会を目指していきましょうということです。具体的には、家庭、地域、教育の場や、職場などそれぞれの場面で暮らしやすい社会を目指して取り組みます。

国が女性活躍推進を進めており、中津川市も色々と施策を進めていますが、これから活躍して欲しい若い女性が進学や就職を機に転出してしまいう現実があります。その理由は、希望する職場や職種が中津川市にないということですが、それを解決する特効薬はなかなかないため、少しでも暮らしやすい、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

具体的にはワークライフバランスの取り組みとして、自分たちだけで頑張るのではなく、会社の働き方も変えるように、企業向けのシンポジウムやセミナーを開催したり、個別に訪問して理解していただけるような取り組みを進めています。岐阜県のワークライフバランス推進企業としては、市内では120社ほどが登録されており、特に優秀な会社を「エクセレント企業」として、市内で5社が認定されています。

また、結婚や出産をしても働き続けていただけるよう、育児休業中の方を対象に、セミナーや交流会を開催しており、出産や結婚などで仕事を辞められた方の再就職を支援するパソコン講習会なども開催しています。

このように、今働いている人、これから働きたい人も、自分の希望が尊重される環境づくりをしていま

す。女性が働きやすい職場ということは、男性も働きやすいことにつながります。また、広報なかつがわに、毎月男女共同参画の記事を紹介していますのでご覧いただければと思います。活躍する女性は、起業されている方、会社で活躍されている方、地域で活躍されている方等さまざまな方がいらっしゃいますので、その方々を紹介していきたいと思って進めています。

女性が活躍している地域は活気があると言われていています。そういった方を応援していきたいと思っています。

懇談

●〇〇さん

蛭川地域はとても良いところなのですが、バスが不便です。小学生が学校へ行くときは乗れるけど、帰りは時間が合わずバスに乗れません。下校がバスの時間より5～10分遅いためバスに間に合わなくて、お母さんが仕事を早く切り上げて迎えに行く必要があります、希望通りに働けません。下校時刻とバス時刻の差が5～10分なら市が学校やバス会社との調整をしてくれたら解決するのではないのでしょうか。始発のバスも減り、蛭川を8時15分からしか出ないので、高校生は利用できない状況です。母親は朝、子どもを送るだけで終わってしまう。便を増やしたり、コミュニティバスの運営はできないのでしょうか。数年後には無人走行なども運営できるようになれば良いなと思います。大勢は乗車しないのでワゴンクラスのバスが整ったら良いと思います。

●〇〇さん

付知はスクールバスが2台あり、小学校や保育園の送迎も行われて助かっていますが、働きに出るお母さんが増えて、朝の保育園の送迎を待っていると仕事に間に合わない場合もあります。私は15時までの短時間の仕事ですが、保育園は16時までなので、残業もあまりできません。子どもの都合で働くしかなく、しっかり働きたくてもできません。

付知から高校が遠いため、通学バスの定期代がすごくかかります。高校生に合わせて職場を中津地区に変えるお母さんもいます。市からの補助金があっても月に何万円もかかるので厳しいです。将来を考えると心配です。

●〇〇さん

地域の過疎化が進んでいて、バスも時間帯によっては利用がない状態もあるので、バランスが難しいところだと思います。中学生の子どもがいますが、今後を考えると、定期代も時間もかかるので心配です。恵那北高校が無くなったのは残念です。中津高校で学校の下に親が迎えに行けるようにスペースを作られたように、小さいこと、例えばコミュニティバス1本でもいいので、そういった支援を考えていただけると助かります。

●定住推進部長

蛭川のバスについては、東濃鉄道が恵那駅から蛭川へと運行しており、朝一番と最終の便が削られました。すぐに東濃鉄道本社に話を聞きにいきましたが、当時は高校生が1人も乗っていないということで、企業の立場から、乗客が少ない時間を削り、小学生が通う時間帯は残したということでした。また、運行

本数を復活するには、数千万円単位で市の補填が必要ということでした。最悪、蛭川へ行くバスが無くなれば、コミュニティバスということになります。民間の公共交通機関があればそれを侵してまでは運行できない現状です。学校の関係でどうしてもということでしたら、市のコミュニティバスで融通がききます。夕方のバスの運行時間については、教育委員会に困っている小学生はいないかと確認したら大丈夫という報告だった。今後教育委員会と話をし、困っている状態であれば、もう一度対応を検討したいと思います。

●市長

聞いた話と違って伝わるのがたまにあります。今の話でも、大丈夫という確認をどのように確認したのかが一番大切なことです。それぞれの立場の人に話を聞かないといけない。(定住推進部で) しっかり進めてください。

●定住推進部長

再度、確認します。

●〇〇さん

子どもが図書館に待機して親が迎えに来るのが当然とされていて、それに合わせて仕事も切り上げています。親の希望を伝えても良いということが分かっていなかったから、大丈夫と答えてしまったのかもしれない。

●市長

市内で、子どもを連れて勤務できたり、出勤時間も帰宅時間も働く側が決められる会社があります。すべての会社がそれを行うのは難しいですが、働く方のことを考えてそういった就業体制を作っている会社が少しでも増えてくれれば、皆さんの時間に合わせていくこともできるのではないかと思います。

●女性活躍推進対策官

例えば、内職を出している会社があって、自宅でもできますが、家で広げるスペースがない人には、会社がスペースを用意してそこで作業ができるという会社もあります。別の会社では、夏休み等子どもの長期休暇で従業員が休みをとることを会社側が見越して、早めに製品を作る計画を作ってくれる会社もあります。そういった企業が増えると良いということで、市内企業への啓発などを工業振興課などと進めています。

●市長

国は、核となる場所に集中して住民が居住するスマートシティを進めています。それは、人口が増加し、生活インフラにお金をかけて作ってきた時代から 30~40 年経って、老朽化が進んできたことがあります。今問題になっているのは水道管理で、国会でも議論されました。行政の水道事業を民間に任せて経営ありきで運営した際に、今のようなサービスが可能かどうかといった問題が出てきていますが、全国

では国の誘導でその方向（スマートシティ）に向かっています。過去に敷設した水道や下水道を修繕して使っていくことを国では支援できないので、地域を小さくまとめて集約することで国や自治体の負担を少なくして生活を守っていく。広い区域すべての面倒をみることはできないけれど、集まることでより効率的なまちづくりもできるということです。富山市がそれを進めています。しかし、中津川市は合併してまだ14年。地域の歴史や文化がありますし、市内で若い方に新たな定住地として選んでいただける機会も増えてきています。そのため、スマートシティという考え方には抵抗があるので私は進めていませんが、国全体の方向でそのような構想があります。

●定住推進部長

高校バスの補助金は、月1万円を超えた額に2分の1の補助をして、年間千数百万使っています。主に福岡、付知、加子母の方に支援をしており、県下でも3市くらいしかありません。県では低所得者向けのものしかないなので、今後も県にも要求を続けていきます。コミュニティバスに対して運営可能なものは、順次見直しをしています。基本的には地区内のみです。その中での改善になりますが、ご意見をいただければ、地域事務所と一緒に検討していきたいと思っています。

●政策推進部長

コミュニティバスは実際利用者が乗っていません。皆さんに乗ってもらわないと運行を続けられません。必ず小学生が乗るということで、事務所に要望していただければと思います。

●市長

先日、ヤマハの自動運転車に乗ってきました。リニアを活かした中での未来のモビリティ化です。これを活用して地域づくりができる場所はないかということで、道の駅や学校や事務所を中心として、また、リニア駅から一定の間は自動運転を大いに活用ができますという話をしてきました。山口の賤母で一度国が試行する取り組みにエントリーしましたが、レベル5まである自動運転レベルの中で、当時の自動運転のレベルは1、2であり、国道19号は大型車が多いため、賤母から坂下や川上へのルートは問題があるということで、もう少しレベルが上がってからということでした。今は、賤母だけでなく、市内の至る所で自動運転活用の話ができます。付知では花街道を中心に北から南に走ったり旧道を通ったりといったこともやっていきたいと思っています。

●〇〇さん

年長と未満児の子どもが付知、加子母で別々の園に通っています。同じところだと助かるので、未満児の拡大をお願いしたいです。

●事務局

今日は、幼児教育の担当がいないので確認しておきます。

●市長

付知で新設した未満児拡大の取り組みはどうでしょうか。

●〇〇さん

7人くらい拡大され、うちの子も入らせていただけてすごく助かりましたが、利用者が増え、枠が少なくして入れなくなりました。加子母で受け入れてくれたので助かっていますが、時間や費用を考えると大変です。

もう1つは、学童についてです。利用者が多すぎて、子どもが入所できず、夏休みは仕事場に連れて行ったり、図書館で待たせて仕事に行っている状態なので、受け入れ人数を増やしてほしいです。学童に入っても親が運営していて大変という話を聞いているので、市での運営を希望しますが、難しいですか。

●市長

学童は、移動もなくて一番安全と言うことで、学校を使わせてもらうことをお願いしているところで、東小学校や南小学校でご理解をいただきました。学校でそういうことができれば改善できていくと思います。また、学童支援員の待遇面などの課題があつて、なかなか広がっていかないところです。今日、意見をいただいたので学童保育については教育委員会を含めて検討させていただきます。

●〇〇さん

去年、10月の申請の時に未満時で子どもを預けられなかったのですが、待機児童ゼロというのは保育園の待機がゼロということですか。また、入園可否の連絡方法は、現在は入れる場合には連絡がなく、入れない場合に連絡がきます。入れないという連絡があるのは怖いので、入れる場合に連絡をもらえるようになりませんか。

また、仕事をしたくても下の子を入園させないと働けません。入園募集の仕方も、休職中や働く予定のあるお母さんが優先されます。私は県外から前職をやめて転入してきて、仕事することなく子どもができたので、こちらでは前職はありません。働いていなかった人は、その時点で優先順位が下がってしまいます。

●市長

待機児童ゼロというのは、入りたいところには入れなくても調整が効けばゼロという言い方です。ここにしか入りたくないという方には実際には待機児童が出ています。しかし、行政の枠では、市内に空きがある場合は、そこを希望しない人は待機児童のカウントに入れられません。待機児童ゼロというのは他の自治体も含めてそのようなカウントの仕方です。

●〇〇さん

疑問が解決しました。

●〇〇さん

1年後に田瀬小学校が閉校になります。地歌舞伎小屋などの目玉がある地域はそれを活かして、盛り上がりを考えられるが、田瀬は歌舞伎小屋などの地域資源が少なく、高校も保育園も小学校も無くなってしまいます。スマートシティを考えられたら最初に切り捨てられそうで、そんな国の政策には違和感があります。地域の人が輝いてこそ中津川市全体の魅力になるし、一部の中心地が盛り上がれば地方はい

いのかというのは違和感があります。人口が少なく、学校が無くなるのは財政的に仕方ないのはわかりますが、全て市にお任せして小学校を活用して下さいと言っているわけではなく、地元の人たちが活用できるようなバックアップをお願いしたいです。地域の人が集えるシンボリックな場所や、若い人が出て行ったとしても、帰ってきたときにあそこへ行けば楽しい場となれば、帰ってきてくれる人もいるかもしれません。

●政策推進部長

中津川市は施設が多すぎるため、整理していかないと市としては財政運営上厳しい状況です。ただ、各地域の拠点は必要で、中津川市はそれをつなぐことが大切と思っています。まちづくり協議会などの民間がやるべきことと、市がやるべきことをはっきり分けて、できるだけ民間を支援していくことも大切だと思っていますが、ある程度コンパクト化していきたい部分もあります。市民や、民間や、学校にお願いする部分を分けて、いかにお金を有効活用していくかということが大切だと思っています。

●市長

旧恵那北高校の活用をということについては、地元や福岡全体の区長からも意見を頂きました。そのときは避難所としての活用でしたが、付知のイハラサイエンスさんが旧恵那北高校を活用して新たな事業展開をしていきたいということや、周囲の山も購入してイハラの森を作りたいと言ってくれ、売却させていただきました。旧恵那北高校の周辺がイハラさんの力で多少景色が変わってくると思います。

若い方の創作に活用したり、ホテル的な宿泊施設として使うなど、それぞれの地域に適したいろいろな使い方があります。馬籠のふるさと学校を改修して宿泊施設としましたが、外国の方を中心に宿泊はすごく伸びています。また、国有林が加子母、付知、川上にあって、その素晴らしさに注目が集まりつつあるので、その一帯を活用していけたらと思います。

加子母、付知、福岡については国有林を活用して、ストレスマネジメントができるまちという考えのもと、都会でITや最先端の仕事をしている人の癒しの場として学校施設が活用できればと思います。他の使い方も含めてこれからの検討課題として検討していきたいです。

●〇〇さん

子どもが、恵那市の廃校した場所での面白いキャンプに参加しました。グラウンドのすみからすみまできもだめしで歩いたり、プールも体育館も絶景もあり、恵那市外からも来てくれて、このまちがいと住んでくれた人もいたそうで、そういうのができれば良いと思いました。

●〇〇さん

地元から声を上げないと行けないと思い、今回、会を立ち上げました。存続や地元の活性化のための準備をしたいと考えています。4校全部残ると経費がかかるので残るとは思ってはいないが、地元として何か動かないといけないと思っています。田瀬小が無くなっても、他の小学校が残るかもしれないので。富山県で小学校が無くなってから、製薬会社が入り活用されているまちの資料を見たり、閉校した学校の成功例なども調べています。田瀬の魅力に特化したものが無いので、付知川や鮎の観光客を利用するなど、具体策を検討したいですが、今日みなさんの知恵を拝借したいです。

●政策推進部長

ご協力できるものとして、国や県の補助金がありますので、主体となる団体を作っていただければと思います。

●市長

ソーラーブドウカンの2回目のときにスタジオジブリの社長が来ました。イベントが出来るまちということで、対談をお願いされたが時間が合わなくてできませんでした。勝手な想像ですが、中津川でサブスタジオを作りたいのかなと思いました。スタジオ活動なので中津川市にあっても十分できます。そんな使い方もあるからの展開です。リニアが来れば東京からわずか50分というのも大きな売りになってきます。

もう1つが、東日本大震災での貴重な絵画の塩害です。塩に触れた絵を修復する技術は今どこにもない。それを中津川でやったらどうかという話をある人から頂きました。修復師が常駐することになって、塩害を含めたすべての修復を行う。修復すると世界的名画が来たときに、お礼として中津川市で3ヵ月くらい展示ができるそうです。ただし、お金の話をすると中津川市単独ではとてもできないような金額です。文化庁や国へ行ったときはこのような話をさせてもらっていて、それを続けていくつもりです。これができれば国際レベルです。修復する場所は学校の体育館が適しています。恵那北高校の下見までしてもらったのですが、体育館は使えるが、教室は天井が低いので新たな施設がいるということでした。小学校だけでなく、市内の他の場所にも出てくる可能性があります。

●〇〇さん

市外から川上に嫁いできました。川上的人是ごく川上が好きで、若い人も地域の行事に積極的に参加することにびっくりしました。小学生も人数は少ないけど、子どもは地域の宝と思ってくれて、年配の方が登下校の見守りをしてくれたり、小学校や保育園の草刈りを多くの地域の方が来て助けてくださることがありがたいです。地域の方に支えられて、川上が成り立っていると感じています。いったん、川上を出たけど、子どもが生まれて戻ってくる人の割合の方が多くなっています。同じ地域で子育てをする仲間がいることはとても大切なことです。

1学年5人～9人。女子1人、2人でかわいそうという声もあるけど、学生のときは仲の良い子が集まっても大人になったらタイプが違う人とうまくやっていかなければならないのですが、そういう力は川上的人是持っているという考え方をする方もいます。中学になると、川上、坂下、山口が一緒になりますが、ここ数年の生徒会長は川上の子が毎年出ていて、人数の少ない学校の子が頑張っています。学校がどのくらいの規模が適切かという話もありますが、小さいからダメということではないと思います。

これからリニアが来るときに、川上のようなところをベットタウンにして、川上に住んで通勤できるようになってくると良いなと思います。川上で活動する「川活」をしてくれている若い人の団体もあって、これから衰退していかないようにできると良いなという思いがあります。

また、広報なかつがわに市営住宅や土地の募集が出ていますが、川上の市営住宅跡地の市有地が載っていないのに理由はありますか。

●事務局

広報なかつがわには市有地の募集は載ってなく、市営住宅の募集のみを掲載しています。

●〇〇さん

そうなのですね。誰か探している人がいれば紹介はしていただけるのでしょうか。

●定住推進部長

川上には市営住宅の跡地など3ヵ所があり、もうすぐ公開できる予定です。特にUIターン者は5年で出ないといけないので、そういう方にもできるかぎり紹介させていただきます。総合事務所へも相談いただければ、紹介させていただきます。

●市長

夕森もみじまつりのときに、食に関する珍しいコーナーの展示がありました。「川活」の効果が出ています。もしかしたら、土岐の曾木公園より川上のモミジの方がいいのではないかという声もあります。昔植えて、しっかり手入れしてきたことがここへきて身を結んできています。

●〇〇さん

地域おこし協力隊として加子母に住み始めて3年目になりましたが、住んでいて思うことは、同じ中津川市なのに、各地区の情報共有などがあまりないと思います。同じ中津川市として、一緒に情報や魅力を発信した方が良くと思います。各地域に良い魅力があると思うので、全体に大きな魅力があることを発信していく方法があるべきだと思います。

私は加子母中心で活動していますが、1人では大変なくらい情報量があるので、中津川市に他にも地域おこし協力隊が必要だと思います。東白川村や白川町の協力隊は6、7人いるので協力してやっていたりしてします。中津川市の発信ができればいいけど、他市町村の協力隊と一緒にやっているの、市全体で魅力発信できるといいです。そういったことを協力隊の役割にできればと思います。

●市長

すぐわかります。地域の協力隊は地域で囲い込みしてしまうので、協力隊をつなげる発想になっていない。白川町とは芝居というテーマではつながるが、つながりがあればもっと大きなテーマで中津川の魅力を複層的に作っていきます。地域の連携なくして、地方自治体が生き残れる時代ではありません。よそでそういった話をさせていただきたいと思います。

地域おこし協力隊の方には、東京の明治座で、「もう1つの明治座」として加子母のブースの準備、売り子やPRをしてもらいました。そういった活動をしていただいています。旧市街の中でも、はざま酒造が改修してミニ講演を、馬籠でも集会場を改修して馬籠座を開催しました。(蛭子座も。)坂下にも、福岡にも保存会があるので、これをつなげていけば、観光という観点で1つのつくりができると思います。今日頂いた意見として、他の地域の協力隊のみなさんの活動の中で、そういった話をしていければと思います。

●〇〇さん

最近ですが、名鉄観光バスが明治座に 70 台来ました。明治座の前に福岡の庚申様に立ち寄っていて、明治座はスタッフを付けて案内していますが、庚申様の案内が何もないと観光客に言われます。中津川市の観光でこういうことが起きているということをどのように情報共有していけば良いのでしょうか。

●事務局

観光課に確認します。

●〇〇さん

中津川市の中で、不妊症、不育症などの女性ならではのテーマが薄い気がします。不妊症には補助などがあるが、不育症はあまり知られていないので力を入れて欲しい。

●事務局

不妊症対策は行なっていますが、不育症対策があるのに知られていなければ残念なことなので、確認して発信していきたいと思います。

●〇〇さん

P T Aの話ですが、各学校で講演会などを開催すると時間が無くて集まりが悪い状況です。せっかくお金を出してきてもらっても、ガランとしている状態が続いています。なので、1つの学校じゃなくて、他の学校と協力してできないかなと。

●事務局

P Rということでしたら、例えば市民安全ネットワークで情報を出しているのでも、教育委員会からその情報をものであればメール配信することができます。

教育委員会に相談していただいても良いと思います。

●〇〇さん

P T Aについてですが、子どもと一番接しているのは母親なので、女性がそういった場に出て活躍してくれるのが一番いい。どんどん本部に出て女性の力を発揮してもらえたらいいと思います。

●市長

今日頂いた問題を各部署に持ち帰り、今後の検討をさせていただきます。

私は長女が高校生になったときに、保護者名の欄に学校のことをよくやってくれる妻の名前を出したら、「お父さんはいないの」と言われました。実際に活動してくれているのは母親なのに、そういうことを言われるのは、日本の社会はまだ男社会だと思いました。ぜひ、皆さんには前面に出ていただいて地域づくりや子育てに関わってもらえるとありがたいです。

もう1点は、リニアの話ですが、環境問題などさまざまな課題があります。実際にリニアが走行する時期になっても、J Rに要望は続けていかなければならないと思います。これからの地域づくりには、リニ

アの名前を借りて、若い人たちに定住していただけるまちづくりを進めていきたい。そのために、地域の活性化、地域の連携が大きなキーワードになってきます。お互いに相談や連携をしていただくようお願いいたします。

最後に1つお願いですが、「行政の壁」、「制度の壁」ということばをよく使います。教育には教育委員会が出てきますが、教育委員会以外が検討した方がもっと前に進めるという内容もよくあります。家庭環境の作り方等、実際の社会生活にあてはめると、教育だけでなく、総合政策や市民協働として行なった方がより成果も出てくるのではないかと思うものもあります。それが「行政の壁」ですが、こうした方が良いという意見がありましたら、皆さんからご意見いただきたいと思います。本日はありがとうございました。

●〇〇さん

2～3年前に姉がこちらに来るときに、周辺の市町の補助金をみて、結局恵那市民になりました。私はそこに住む人を選んだので、比べられやすい補助金も大事だけど、一時的な補助金で決められたのは残念です。若いお母さんに来てもらいたかったら、飲食店には中津川市提供のお絵かきセットや積み木があったり、スーパーに子どもが2人乗れる新しいカートがあったりと、普段よく行くところで補助制度があったほうが嬉しいです。そういう困っているところをすくい上げて、若いお母さんに近いところに補助金を使った方が効果はあると思います。

●市長

時間給論争ですが、時間給の安いところのほうが年収にすると高かったという事例があります。目に見える部分では、恵那市、多治見市が手厚いところもあるが、トータルでは中津川が充実していることもあります。PRが下手なので、総合的な観点で話をしていけないと思っています。

●〇〇さん

最後に、蛭川に公園が欲しいです。運動場があるけど遊具があると良いです。